

聖書:ルカの福音書5章27～39節

説教:罪人を招くために

はじめに

イエスは、中心都市であるエルサレムから見れば田舎に位置するガリラヤで多くの奇蹟を起こし、神の国の福音を語ります。その噂はエルサレムのパリサイ人や律法学者たちの耳にも届き、ただちに調査隊がイエスのもとに派遣されました。前回は、イエスが彼らの目の前で中風の人に対して罪の赦しの宣言をしたこと事がきっかけで、罪を赦すことができる方は誰であるのか、あなたがたはよく考えなさいとイエスが言われた場面を見てきました。

今日のところでは、イエスが取税人であったレビが開いた宴会の席でイエスが食事をしていたことがきっかけで、論争が巻き起こっていきます。

1 パリサイ人とイエス

1) 取税人、罪人たちと一緒に食べている

イエスの時代、イスラエルはローマ帝国の支配下にあり、ローマに税を納めなければなりません。けれども払いたい人などいませんから、集めるのが難しい。そこで現地の人に詳しいイスラエル人を雇って彼らに集めさせることにしました。それが取税人レビの仕事です。パリサイ人は、取税人は神の国イスラエルを外国に売った罪人であるとレッテルをはっていた。これがこの箇所背景です。ちなみに、このレビはマタイの福音書を書いたマタイと同一人物であると言われています。

ここを読んで、レビがイエスに簡単に従っていったことに驚くのではないのでしょうか。先日、ある公園に行ったら看板が立っていて、「甘い言葉に注意しましょう」と書いてありました。子どもでも、知らないおじさんについて行ってはいけないと知っています。それでもレビがすぐにしがつた理由については興味あるところですが、今日はそのことがテーマではないので、簡単に触れるだけにしておきます。レビは、取税人の立場を利用して税金をピンハネして甘い汁を吸っていましたから、物質的には恵まれた生活をしています。でも近寄ってくるのはお金目当ての人たちばかりで、本当に信頼できる友がいなかった。そのことに苦しんでいたのではないか。そんなときに、イエスからあたたかい声をかけられたことがよほど嬉しかったようです。わざわざ宴会を開き、取税人の仲間も呼んで食事をする。それを見ていたパリサイ人たちは、小

声で文句を言う。「なぜあなたがたは、取税人たちや罪人たちといっしょに食べたり飲んだりするのですか。」

旧約聖書に、汚れた物を食べてはならないとあり、罪人が食卓に座ると食べ物は汚れると考えたのでしょう。

2) 罪人を招くために

これに対するイエスの反応は31, 32節。「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人です。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためです。」

イエスは質問に対する答えをすぐに出しません。自分で考えるように仕向けます。医者、病人、正しい人とは誰で、罪人とは誰のことか。私たちはすぐに分かる。医者とはイエスのこと。イエスは健康で正しい人ではなく、病人である罪人を招いている。そこまではわかる。問題は、では誰が罪人であるのか、ということになる。パリサイ人たちは、聖書に書かれていることを忠実に守っているので、自分は罪人ではない、正しい者であるとの絶大な自信をもっています。罪人であるとの自覚がないので、医者であるイエスの所には行かない。

3) 断食をしない

それどころか、イエスが本当に医者なのかどうか疑って、33節でこんな質問をする。「ヨハネの弟子たちはよく断食をし、祈りをしています。パリサイ人の弟子たちも同じです。ところが、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています。」

旧約聖書には、イスラエルの民たちが罪を悔いたり、あるいは神に祈りをするとき断食をする場面がありますから、断食は信仰者として当然すべきことだとパリサイ人は考えます。ところが、イエスと弟子たちが断食するどころか、いつも食べたり飲んだりしていて、ちっとも信仰深く見えない。あなたは本当に医者なのか。そんな不信感を抱えています。

4) 花婿が取り去られたら

これに対してイエスは34, 35節でこう言われます。「花婿と一緒にいるのに、花婿に付き添う友人たちに断食させることが、あなたがたにできます

か。しかし、やがて時が来て、花婿が取り去られたら、その日には彼らは断食します。」

花婿とは誰で友人とは誰か。花婿が取り去られるとは、その日に断食すると言うけれど、どうして断食するのか。すぐに答えを探したくなります。残念ながら聖書には解答集がない。ここでも、答えは自分で考えなければなりません。

2 たとえの意味

1) 古いものと新しいもの

そこでイエスは二つヒントを出します。布きれに継ぎを当てるたとえと、ぶどう酒を皮袋に入れるたとえ、です。私が子どもの時は、穴のあいた靴下に継ぎを当てるのは当たり前でしたが、いまはそんなことはしませんので、ピンとこない。もう一つのたとえのほうがわかりやすいでしょう。

ここは、「新し酒は新しい皮袋へ。」日本語でもこんなことわざになるくらい有名です。動物の皮というのはご存じのように新しいちは柔軟性があるけれど、古くなるとだんだん堅くなる。いっぱい、ぶどう酒は新しいものほど発酵しているのでどんどん気体が出て、皮袋をふくらませる。それで、新しいぶどう酒は新しい革袋に入れなければならない。

それはいいのですが、では古い皮袋とは何か、新しいぶどう酒とは何かということになる。話の流れから、古い皮袋とは、パリサイ人たちが大事にしている断食のこと、もっと言えば旧約聖書全体のことを指すとも考えられる。いっぱい新しいぶどう酒とは、このたとえに即せば、今は断食しないけれど花婿が取り去られたら、その日には断食することを指すと考えられる。

一方は、旧約聖書を持ちだして断食しなさいと言い、それに対してイエスは「いまは断食しません」と言う。これではまるで正反対ですから、無理矢理にくっつけようとしても、布は引き裂かれ、皮袋は裂けてしまいます。

2) 「古い物が良い」とは

そこまで納得したつもりでいると、39節で意外なことばに出会います。「まただれも、古いぶどう酒を飲んでから、新しい物を望みはしません。

『古い物が良い』と言います。」

ワイン好きな人なら、古いものほどおいしいというのが常識です。しかしどうでしょう。38節までは、もう古いものはダメだ、新しく来られたイエスが良いのだ、そんなふうに使っていたのに、39

節では一転して「古いものが良い」、と言う。いったいどっちなんだと戸惑いいます。

3) 旧約はイエスを指し示す

そこでまず、イエスが旧約聖書をどのように位置づけていたのか。イエスがこれまで語っていたことを調べてみましょう。ご自分の故郷ナザレの会堂に入られたとき、イエスは預言者イザヤの書を開いたときのことです。「主はわたしに油をそそぎ、わたしを遣わされた」と語り、「今日、この聖書のことばが実現した」と宣言されました。

わざわざイザヤの書を読み上げるのですから、イエスは旧約を無視しなさいとか、旧約はもう古いのでダメですと言っているのではない。むしろ旧約はイエスを指し示している大切な書なのだと言っていることになる。そのことを確認しておきます。でもパリサイ人たちだって旧約は大切だと言っている。それなのにイエスとぶつかってしまう。どうしてでしょうか。そこにこの箇所の問題の核心があるようです。

3 花婿が取り去られるとき

1) パリサイ人の狭い信仰

ではパリサイ人の信仰とはなんであつたのか。イエスが罪人と一緒に食事をしていると、口で非難してばかりで、罪人の輪に加わろうとは絶対しません。それは、前回でもそうでした。中風の人が目の前で苦しんでいても、口で文句は言うだけで、自分からはいっさい手を出そうとしない。ここでも、自分たちこそ健康で定期的に断食をして正しい者だと思ひ込んでいます。だから、断食をしないイエスと弟子たちを見ると妙にイライラしてくる。彼らだってそれなりに旧約聖書に忠実であろうとしたわけですから。ところがそんな彼らが、旧約で預言されていたイエスを攻撃してしまう。いったい何が間違っていたのでしょうか。

2) 断食をする

そのことは、いつ断食することになるのかを見ていくことで明らかになります。花婿が取り去られるとき。この方が十字架におつきなるとき。なぜ十字架におつきになったのか。パリサイ人たちがイエスを十字架に追いやりました。イエスを神の子救い主と認めなかった、彼らの狭い信仰がすべての原因であつた。

では狭い信仰とは何か。パリサイ人がしたこととしなかつたことを見ててください。もう一度言います。中風の人が目の前に横たわっていても何も

しません。したのは文句を言うことだけ。罪に苦しんでいる人がいても、「お前は汚れている。俺たちの仲間ではない。あっちに行け」と言って追い返す。決して罪人のところには行かないで、自分の手をよごそうとしない。そうやって結局はイエスを十字架に追いやりました。

3) 古い物の良さに気がつく

では、イエスはどうかされたのでしょうか。パリサイ人の反対です。中風の人の罪を赦して、その罪を背負いました。罪人であったレビに声をかけて仲間となり、罪人と一緒に食事をします。そのことでパリサイ人から非難され、断食をしていないと言って文句を言われ、最期は十字架で取り去られていく。これがイエスのしてくださったことです。自分の手を汚していく生き方。人の重荷を進んで引き受けて苦しんでいく生き方です。

最後に考えます。この方は、十字架で取り去られて終わりだったのでしょうか。そうではない。この方が取り去られたとき、人々は心が刺されます。パリサイ人がイエスを殺したと思っていたけれど、もしかして自分が手にかけてのではないか。そのことがわかってくる。そうしたら食事が喉を通りますか。苦しくてとても食べるなどできない。「花婿が取り去られたら、その日には彼らは断食します。」断食は命令されてするのでない。本当に自分は罪人だったのだと自覚したとき、だれに言われなくても食べられなくなる。旧約聖書が語る断食とは本来そのような意味だったのです。

先ほど39節で「古い物が良い」と言われた意味について触れましたが、十字架を見た時に、初めて古い物、旧約聖書が語っていた本当の意味に気がつく。そのようにも解釈することができます。

パリサイ人は旧約聖書を読んで、目に見える行いを大切に、罪人を徹底的に遠ざけようとしてきました。しかし、イエスは同じ旧約聖書から、目に見えない心の痛みと苦しみをみようと、罪人と寄り添うために自らのからだを十字架に献げて行かれた。

教会はきよくて正しい人たちが行くところ。世の人たちはそう思っているようですが、とんでもありません。その反対です。イエスは、病人である者、罪人である者を招いてくださる。その恵みを覚えたいと願います。